

平成28年度第3回千葉市史跡保存整備委員会 議事録

1 日 時 平成29年3月10日（金） 午後3時00分～午後5時00分

2 場 所 千葉市教育委員会 第一会議室

3 出席者 （委員）

赤坂委員、岡本委員（委員長）、高橋委員、竹内委員、中村委員
（事務局）

大崎生涯学習部長、飛田加曾利貝塚博物館長、志保澤文化財課長
芦田文化財課長補佐、森本主査、木口主任主事、大内主任主事
須賀主任主事

山下主査（加曾利貝塚博物館）、石橋主査（埋蔵文化財調査センター）

4 議 題

報告

- (1) 史跡加曾利貝塚の特別史跡指定に向けた取組み状況
- (2) 史跡荒屋敷貝塚の公有化について
- (3) 平成29年度史跡加曾利貝塚関連事業予算（案）

議事

- (1) 平成29年度の史跡加曾利貝塚の整備活用について
- (2) 平成29年度の史跡加曾利貝塚の調査研究について

5 議事の概要

報告

- (1) 史跡加曾利貝塚の特別史跡指定に向けた取組み状況について
資料1を用いて報告を行った。
- (2) 史跡荒屋敷貝塚の公有化について
資料2を用いて報告を行った。
- (3) 平成29年度史跡加曾利貝塚関連事業予算(案)について
資料3を用いて報告を行った。
広報の重要性や駅等での展示について助言があった。

議事

- (1) 平成29年度の史跡加曾利貝塚の整備活用について
資料4に基づき説明を行った後、質疑応答を行った。
史跡の持つ価値を活かした計画になるよう、意見があった。

(2)平成29年度の史跡加曾利貝塚の調査研究について

資料5に基づき説明を行った後、質疑応答を行った。

1. 科学研究費等の外部資金の導入、2. 調査研究体制の充実、3. 博物館運営や調査研究への外部評価の導入、4. 大学や研究機関と連携した調査研究の推進の4点について、委員より提言があった。

6 会議経過

【開会】

(芦田課長補佐)

ただいまより、平成28年第3回千葉市史跡保存整備委員会を開催いたします。本日、青木委員と設楽委員から欠席のご連絡を受けておりますが、半数以上の委員に出席いただいていることから、会議が成立していることをご報告申し上げます。会議につきましては、千葉市情報公開条例に基づき、公開といたします。議事録は事務局が作成し、委員長の承認を経て決定いたします。なお、生涯学習部長は所用により、途中で退席させていただきます。

それでは、これより会議に移ります。ここからは、岡本委員長に進行をお願いしたいと存じます。岡本委員長、よろしく申し上げます。

報告 (1) 史跡加曾利貝塚の特別史跡指定に向けた取組み状況について

(岡本委員長)

今までの会議を経て、特別史跡に向けた取組みが具体的になってまいりました。先生方の活発なご意見を伺いながら、来年度に向けた足固めをしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

それでは、報告事項(1)史跡加曾利貝塚の特別史跡指定に向けた取組み状況について、事務局より説明をお願いします。

〔事務局説明：資料1にもとづき、説明。〕

(岡本委員長)

今の説明を受けまして、何かご意見ありますか。

(各委員)

意見等なし。

(岡本委員長)

意見等ないようですので、次に進めさせていただきます。

それでは、報告事項(2)史跡荒屋敷貝塚の公有化について、事務局より説明をお願いします。

〔事務局説明：資料2にもとづき、説明。〕

(岡本委員長)

今の説明を受けまして、何かご意見ありますか。土地所有者である国土交通省や高速道路機構から市に対して買い取り要望はあるのですか。

(志保澤課長)

相手方も道路管理上必要な土地ということで、土地は所有し続けたいとのこと。

(岡本委員長)

その他、意見はありますか。

(各委員)

意見等なし。

(岡本委員長)

意見等ないようですので、次に進めさせていただきます。

それでは、報告事項(3)平成29年度史跡加曾利貝塚関連事業予算(案)について、事務局より説明をお願いします。

〔事務局説明：資料3にもとづき、説明。〕

(岡本委員長)

今の説明を受けまして、何かご意見ありますか。集客事業の委託の内容は、具体的にはどういうイメージを持てばいいですか。

(志保澤課長)

具体的な内容を博物館で検討しているところですが、1社に1年間外部委託するものではなく、来訪者が多いゴールデンウィークや夏休み、秋祭りの際に、職員やボランティアではできない集客事業の委託を考えています。

例えば、今は加曾利貝塚のキャラクターグッズをボランティアが製作して販売していますが、こういったものも集客事業の一環でできればと思います。

(岡本委員長)

博物館でも長年蓄積されたノウハウがありますので、丸投げするのではなく博物館の蓄積を踏まえたものにしてください。

(飛田館長)

『千葉あそび』という市内でできる体験を紹介した季刊の観光冊子があり、期間限定で加曾利貝塚博物館も協力し、市内のイタリアンレストランによる縄文スープと博物館による縄文体験を提供しました。有料にもかかわらず参加者からも好評でしたので、こういった新たな取組みをしていければと思います。

(岡本委員長)

行政だけでできない取組みを始めることは必要だと思います。他にございませんか。

(赤坂委員)

都内の博物館も指定管理者制度で様々なアイデアで活用していることもありますので、

先行事例を集めて検討していただければと思います。

(志保澤課長)

現在の加曽利貝塚博物館は入館料も体験メニューも無料ですから、今は指定管理者制度を導入することは難しいと思います。新しい博物館の在り方について考える中で、有料化も含めて議論をしていきます。

(竹内委員)

シンポジウムも行う予定ですが、広報の予算はどうなっていますか。

(志保澤課長)

集客事業委託にキャンペーン経費も含んでいます。

(竹内委員)

今までも加曽利貝塚の広報は弱みだと思しますので、もう少し関連する予算にも目を向けていただければと思います。

(飛田館長)

市議会でもキャンペーンの仕方について質問が出ており、市民全員に加曽利貝塚が知られていない状態というのは課題になっています。

例えば加曽利貝塚の最寄駅はモノレール桜木駅ですが、そのこともあまり知られていません。JR都賀駅、千葉駅もあわせ、駅での広報を検討しているところです。

(岡本委員長)

現在のスタッフの人数では難しいのかもしれませんが、普及活動や発掘情報の発信も、誰か一人が広報担当という形で責任を持って行えれば良いと思います。

(高橋委員)

広報の件ですが、SNSによる発信力は本当にすごいですね。市の規制があると思いますが、加曽利貝塚を知らなかった若い人にも情報が届くようにしてほしいと思います。

(飛田館長)

SNSの活用は若い職員の意見も取り入れて、無料で発信できるものを活用していきたいと思います。

(中村委員)

先日の加曽利貝塚シンポジウムに参加しました。内容も素晴らしく、多くの方が参加していました。これからは子どもにも興味を持ってほしいですね。例えばシンポジウムで子どもに加曽利貝塚に関する研究を発表してもらうなどはいかがでしょうか。小学校低学年の頃は感性が研ぎ澄まされています。将来の加曽利貝塚の支援者を育てるという意味で、子どもたちも学びと発表をする機会を作れたらと思いました。

それから、他市の例になりますが、長野県茅野市の尖石遺跡は、最寄駅に黒曜石の展示や土器が展示してあります。千葉駅も新しくなったことですし、駅にも加曽利貝塚を感じさせるものが必要だと思います。

(岡本委員長)

以前はありましたが、駅前地下道の縄文土器は展示していないのですか。

(飛田館長)

撤去しています。

(中村委員)

本物の展示にはハードルがあると思いますが、方法を工夫して実現したいものですね。

(岡本委員長)

史跡内での営業活動は禁止ですか。毎月定期的に縄文マルシェを開くなど。加曽利貝塚に行かないとできない体験を提供してはいかがですか。

(志保澤課長)

先日のシンポジウム会場でも、民間事業者に貝塚にまつわる商品を販売していただきました。広報が不足していたかもしれませんが、今後はきちんと計画を立てて、特別感のある演出ができればと思います。

(飛田館長)

次回の縄文まつりでも、キッチンカー等による飲食物の提供を考えています。

(岡本委員長)

集客に関する案をどうやって実のあるものにするかという難しい問題ですね。ご質問ないようでしたら、次に移ります。

(各委員)

質問等なし。

(岡本委員長)

次に議題（１）平成２９年度の史跡加曽利貝塚の整備活用について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明：資料４により、説明〕

(岡本委員長)

策定した史跡加曽利貝塚保存活用計画に則って行うものですが、いかがでしょうか。

(赤坂委員)

博物館はアクセスが悪いしそれを補うアナウンスが足りていません。広報が大切なのに、このままのメンバーだと何も変わらない。大きな予算が来ても、きちんと使いこなせるのか。この資料どおりやってもらうしかないと思いますが、もう少し踏み込んで実感を伴わせないと、ぼんやりした内容になるおそれがあります。

(中村委員)

フィールドエリアの植生や導線を含めた基本のデザインを策定する内容だと思いますが、委託先はどういった方になりますか。

(志保澤課長)

文化財を使った町おこし・プロデューサーのような方もいらっしゃいます。ジョイントベンチャー的に入っていく形でしようが、今、検討しているところです。

以前都市局で策定した縄文の森構想も土台になると思いますが、周辺の宅地化もあって策定時と状況も違います。1年という短い期間ですが、地元の人から賛同を得られない計画にならないよう、方法を十分に考えたいと思います。

(竹内委員)

グランドデザインの策定は、交通のプロや博物館のプロなど、色々なメンバーを集めて組織を作っていくと難しいと思います。基本的には、グランドデザインの策定は、非常にいいことで、これを策定して史跡全体の将来の方向性を示すのは大切です。

(中村委員)

グランドデザインの策定過程は、どういう形での意見募集をしますか。

(志保澤課長)

それぞれ専門の方から意見を聞く形にしたいと思います。

(岡本委員長)

委員会を開催して、それぞれ専門の方の意見を聞く形でしょうか。

(志保澤課長)

現在検討中です。グランドデザインは、史跡を管理する教育委員会だけでなく、河川、道路、緑地などの行政的なものも含めて、将来目指すべき姿・デザインになります。具体的な整備の計画書とはまた違ったものになります。

(中村委員)

こういった計画の策定は、現場を知らない人がつくと現場のポテンシャルを無視して良い部分を全てなくしてしまうことが往々にしてあります。現場のもともとの良さを高めることを基本に、今の素晴らしさを活かすように気を付けてください。

(赤坂委員)

河川、丘陵、生物、遺跡の活用、地元理解などたくさん課題があります。その上シンポジウムも開催するというのは、1年という短期間で大丈夫かという危惧を持ちました。

(岡本委員長)

短期整備計画はグランドデザインの中に含んでいますか。

(志保澤課長)

短期整備計画は、今後想定される来訪者の増加に対し、看板の整備など史跡内を少しでも環境良くしておきたいというものです。

(岡本委員長)

他にご質問等がありますか。ないようでしたら、休憩を挟み次の議題に移ります。

(各委員)

質問等なし。

～休憩～

(岡本委員長)

会議を再開します。次に議題(2)平成29年度の史跡加曾利貝塚の調査研究について、

事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明：資料5により、説明〕

(岡本委員長)

これに基づき、発掘調査を具体的に進めていきますがいかがでしょうか。

(高橋委員)

報告書を刊行したので、報告書にある今までの調査でわからないことを明確にしながら調査を続ける必要があります。今まで関わったエキスパートの意見もうまく聞きながら、きちんとした計画をつくっていくのが重要ですね。

(岡本委員長)

発掘は整備計画とも連動して、学術的な側面だけでなく整備の関係で発掘しないといけない側面も出てきます。赤坂先生ご意見いかがですか。

(赤坂委員)

調査研究の体制も考えなければいけません。前回の会議でも、大きく議論になったことが4点ありました。1. 学芸員が科学研究費等の外部資金を申請できる仕組みづくり、2. 学芸員が調査研究活動に多くの時間が振り向けられる制度設計、3. 博物館の運営や調査研究への外部評価の導入、4. 大学や研究機関と連携して調査研究を進めていくための体制づくりでした。

まずは研究体制です。配置転換で、調査研究が中断されると蓄積が難しいですから、博物館の研究の業績をきちんと上げられる環境をつくる必要があると思います。

次に外部資金の獲得についてです。外部資金が入っても、全体の予算をそれで補てんするので、結果としては市の予算が削られるおそれがあると聞きました。大学の研究費も削られています、大学では外部資金はとるようになっていられるくらいです。行政でも、獲得できた外部資金は一般の予算にプラスアルファで認められるようにしないとダメです。ですから、博物館が新しくなるこの機会に、千葉市役所の中でも研究体制を構築する際の外部資金導入の大切さをきちんと理解していただかないとダメです。お金があれば、機材の購入や広報など、重要度の高い予算の執行も可能だと思います。

外部評価についてですが、外部評価という第三の組織を入れれば、市と研究者を調整する仕組みができると思います。それが今後の調査研究体制に対して重要なのではないかと。外部評価を受けて議論をすることで、今までの経緯を議事録で残しながら有効に作用させる仕組みがあると思います。学芸員が今後の調査研究ができる体制を切に望みます。

(岡本委員長)

ありがとうございます。研究体制は重要なこととして議論してきましたが、この点について中村先生ご意見いかがですか。認定のハードルはかなり高いですか。

(中村委員)

科学研究費の指定機関になるにはとてもハードルが高い時代がありましたが、今は以前ほどではないと思いますので、ぜひそこを目指していただきたいと思います。考古学の博

博物館で指定機関になっているところがありますか。

(岡本委員長)

奈良県立橿原考古学研究所、山梨県立博物館などがあります。博士号が何人以上等の要件があるかもしれません。市町村で研究機関として指定された例はありますか。

(事務局職員)

長野県の飯田市歴史研究所があります。市の職員だけでない研究員を入れた組織です。

(岡本委員長)

そういった組織体制で指定していただければ、市単独の費用に加えて研究的な側面に使える資金が増えるということですね。

(中村委員)

優秀な研究者がいれば博物館のブランドも向上します。ぜひ指定基準を目指してください。育った研究者が大学に流出してしまうこともあります。そういう風にならないよう、優秀な人間を抱えて加曽利貝塚博物館で活躍してもらおうようにしないといけません。

(竹内委員)

加曽利貝塚にも、「この人に聞くと安心して色々なことを教えてもらえる」という専門性を持った人が欲しいですね。市民も専門性の高さからくる信頼を求めていると思う。

(飛田館長)

飯田市歴史研究所は高い評価を受けているところです。我々も先行事例を調べて組織を作る必要があると思っています。

(岡本委員長)

千葉市は政令市なので、県と同じレベルを目指してください。

(高橋委員)

千葉県立中央博物館は指定をとれていて、歴史・考古・民俗など色々な研究をしています。加曽利貝塚も、貝塚をもとにそういったテーマ別に幅広く研究者を養成することが可能なはず。加曽利貝塚のネームバリューはすごいもので、教科書にでも何でも出てくるものですから。これをうまく積み上げて指定を目指すことは可能だと思います。

(岡本委員長)

そうした時、私も行政の研究所にいたのでそう思うのですが、行政的なことを何もしないで研究さえしていればいいという考え方が出てきます。そうではなく、博物館の中では研究が保障され、行政の場に職員が行けば研究以外の他の業務もして、全体的に盛り上がっていくような体制にする必要があります。行政から学芸員を見た時にも理解を得られるようにしないと。研究だけを保障しろということはいえない。気持ちはわかりますが。

調査研究活動だけでなく、普及活動も研究調査に基づいて制度設計していくということが重要です。飯田市の研究所も参考にしてください。研究は、加曽利貝塚が特別史跡になって、遺跡を守ることや普及活動しなければいけないことに資するという、行政全体の位置づけにしておけばいいと思います。

(中村委員)

研究者の性格によるところも大きいです。一つのことにとこだわって専門性が高く、他のことはできないが素晴らしい研究をするという研究者も何人かいた方がいい。でも、そういう人間が行政の職場に配属されると、精神的に参ってしまって折角の長所が活かされないことがあります。その職員の長所を考えることが大切です。

もう1つは、研究の内容が過去を知ることだけに入り込み過ぎるのではなく、考古学も未来への基盤となるよう、その研究テーマも、誰もが意義を感じられる物も欲しいと思います。

(岡本委員長)

ここで研究者が委員として多くの意見を熱く語っているわけだけど、行政の中での研究のあり方はやはり色々な制約があると思います。そこをランドデザインでどう位置づけるか。言葉で研究型というのは簡単だけれども、行政のなかでどういう位置づけで出来るのかというのを考えながら組織作りをしていただきたい。

調査研究に関して発掘の話ですが、これからの調査に向けて調査区の区割りは作成しましたか。加曽利貝塚をメッシュで切ったある程度の区割りをきちんと設定しないと、どこを調査したのかわからなくなります。全体の発掘計画で1区とか2区とか、測量とともに区割りをしておかないといけません。

また、調査の次数を検討してください。今後の特別史跡に指定された時以降を新しい1次にするのか、1900年代から続いた次数とするのか、きちんと位置づけてください。地区割りは重要なことで、貝塚の分布と地区割りは関連するかもしれません。機械的に割るしかないと思いますが、来年度にすぐにでも事務局案を提示してください。

(高橋委員)

以前に行われた北貝塚と南貝塚の調査で一応区割りを作ったはずですが、鉄塔の下で電磁波の影響を受けてまっすぐ線が通らずに曲がってしまうということを聞きました。今のレーザーでも同じように電磁波の影響は受けますか。

(事務局職員)

昨年12月に実施した地中レーダー探査では、測量杭を打つ時に少し影響があり、やり直しをしました。来年度の測量はレーザーで行うので影響はありませんが、地中探査は考慮する必要があります。

(岡本委員長)

私たちが学生時代に掘った、大トレンチの区割りは残っていますか。

(事務局職員)

あの調査自体の方位がずれているので、新しく作る必要があります。

(岡本委員長)

調査を進めるにあたっては、区割り等をきちんと整理した上で調査してください。

(事務局職員)

来年度想定している調査の目的も、今までの発掘調査の範囲の確定という再確認の意味もありますので、位置が特定できるようにしたいと考えています。

(岡本委員長)

調査が始まる前にそういうものだけをきちんと整理し、具体的な調査の在り方や中身は、来年度に委員会を作ってそこで進めていくということですね。他にございますか。

(各委員)

質問等なし。

(岡本委員長)

特になければ、これを持ちまして本日の議事を終了します。それでは進行を事務局へお返しいたします。

(芦田課長補佐)

委員の皆様、長時間、ご審議いただきありがとうございました。以上を持ちまして、平成28年度第3回千葉市史跡保存委員会を閉会いたします。

——了——